

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒
刑ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ロ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役
ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ノ乗載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス
其人ヲ乗載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件
ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ
處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付
ス

以上ハ放火罪ニ關スル規定ナリ之ヲ通テ放火罪ノ成立要件ヲ求ムレバ第一、火
ヲ放テ燒燬シタルコト第二、家屋其他法律ノ規定シタル物件ニ係ルコト第三、故意
アルコト是ナリ

放火罪ノ成立ニハ火ヲ放チテ燒燬シタルコトヲ要ス火ヲ放ツコト及ビ燒燬ノ何
タルヤハ特ニ説明ヲ俟タザルモ着手ト實行トノ區別ハ如何既遂未遂ノ境域如何

ノ問題ニ付テハ容易ニ斷ズベカラザルモノアリト雖通説ニ從ヘバ一旦家屋物件
等ニ火ヲ移シタルトキニ於テハ實行ノ所爲アリト云フヲ得ベク其果シテ家屋物
件ヲ燒キタリヤ否ヲ問ハザルベシ既遂ノ所爲アリトスルニハ燒燬ノ實ナカルベ
カラズ唯ダ家屋物件ノ一部分ヲ燒クモ全部ヲ燒クモ均シク燒燬タリト云フヲ得
ベキモ家屋ガ家屋トシテ存在ヲ失フノ程度ニ至リタルトキ初メテ既遂アリト言
ヒ得ベク其程度ニ至ラザルトキハ既遂アリト言フベカラズ而シテ如何ナル場合
ニ於テ其家屋ガ家屋トシテ存在ヲ失フモノトスルカハ事實裁判官ノ認定ニ依
ラザルベカラズ

放火罪ノ目的物ハ家屋其他法律ノ規定シタル物件ナルコトヲ要ス法律カ其目的
物トシテ規定スル所ノ物件ハ左ニ掲グル如シ

第一、人ノ住居シタル家屋 即チ犯人以外ノ者ノ住居セル家屋ヲ云フ其何人ノ
所有權ニ屬スルヤヲ問ハザルナリ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第二、人ノ住居セザル家屋其他ノ建造物 第四百七條ノ規定アルヨリ見レド此
場合ノ家屋其他ノ建造物ハ他人ノ所有ニ屬スル場合ナリト斷セザルヲ得ズ家屋
ニ付テハ犯人自己ノモノト雖モ放火罪ヲ構成スルモノトナスニ拘ハラズ之ト同
ニナル建造物ニ付テハ必ラズ他人ノ所有物タルヲ要スルハ其當ヲ得ザルモノト

言フベキカ此場合ニ於ケル處分ハ無期徒刑トス

第三、廢屋及ビ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎 此場合モ亦タ他人ノ所有物タル時ニ限ル之ヲ燒燬シタル者ハ重懲役トス

第四、自己ノ家屋 是レ犯人自己ノ所有ニ屬シ而シテ他人ノ住居セザル家屋ヲ言ヘルナク之ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五、人ヲ乗載シタル船舶汽車 此場合ニ於テモ人ノ住居シタル家屋ト均シク何人ノ所有タルヲ問ハズ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第六、人ヲ乗載セザル船舶汽車 此場合ニ於テハ法律ノ明文ハナキモ他人ノ所有ニ屬スルモノ、ミニ限ルモノト言ハザルヲ得ズ否ラズシバ第四百七條ノ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル罪ト其權衡ヲ得ザレバナリ其處分ハ重懲役ナリ

第七、山村ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件 是レ亦タ他人ノ所有ニ屬スル物件ト解セザルヲ得ズ之ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

放火罪ニハ尙ホ故意アルコトヲ要ス即チ火ヲ放チテ家屋其他法律ノ規定シタル物件ヲ燒燬スルノ意思アルコトヲ要ス是レ總則ノ適用ナリ而シテ其意思ト目的物トノ間ニ錯誤アリタルトキ例ヘバ自己ノ家屋ナリト信ジテ他人ノ家屋ヲ燒燬シタルトキハ第七十七條第三項ヲ適用スベキモノトス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二間以上二十間以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ失火罪ヲ規定シタルモノナリ

失火罪トハ火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル所爲ヲ謂フ火ヲ失シトハ即チ過失ニ因ツテ火ヲ出シタルコトヲ謂フ失火ト放火トノ差異ハ故意ニ出ヅルト過失ニ出ヅルトノ点ニアリ

失火罪ノ目的他人ノ家屋財産タルコトヲ要ス自己ノ所有物件ナルトキハ竊盜等ノ場合ニ於ケルガ如キ特別ノ明文ナキガ故ニ失火ニ因リテ之ヲ燒燬スルモ本罪ヲ構成セズ

過失犯ニハ未遂犯ナキコトハ總則ニ說明シタル如シ故ニ失火ニ因ツテ人ノ家屋財産ヲ燒燬スルモ其目的物が原体ヲ失フノ程度ニ至ラザリシトキハ無罪トス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ準放火罪準失火罪トモ言フベキ罪ヲ規定シタリ別ニ說明ヲ要スル点ナシ

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

此種ノ決水罪ハ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ家屋建造物田圃等法律ニ規定シタル物件ヲ漂失又ハ荒廢スルコトヲ要ス漂失トハ放火罪ニ於ケル燒燬ト同シク屋屋建造物ヲシテ其土地ニ定着シタル基礎ヲ離レ家屋建造物タル原形ヲ失ハシムルヲ云ヒ荒廢ニ付テモ同シク田圃礦坑等ヲ原形又ハ原質ヲ失ハシムルヲ言フナリ

本條ノ犯意ニ付テハ學者ノ間ニ說ヲ異ニス或ハ此種ノ罪ハ毆打創傷罪ニ類スル結果犯ナルガ故ニ單ニ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルノ意思アルノミヲ以テ足レリトシ必シモ漂失シ又ハ荒廢スルノ意思アルヲ要セズ唯ダ人ノ住居タル家屋ヲ漂失セシムルノ結果ヲ生シタルト人ノ住居セザル家屋ナルト果タ田圃等ヲ漂失セシムルノ結果ニ因リテ其處罰ヲ異ニスルモノナリトシ或ハ此種ノ罪ノ成立ニハ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルノ意思ニ加フルニ漂失シ又ハ荒廢スル

ノ意思ヲ要スルモノトス然レド前說ニ從フトキハ家屋ヲ漂失セシ意思ヲ以テ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルモ實行ニ着手シタル後他ノ障礙ノ爲メニ其目的ヲ達セザルトキハ設令水害ヲ起スモ本條ノ未遂犯ヲ以テ罰スルヲ得ザルノ結果トナリ之ヲ彼ノ過失ニ因ツテ水害ヲ生シタル者ハ其結果ノ輕重ヲ問ハズ第四百十四條ニ依ツテ罰セラル、ニ比テラブルトキハ權衡ヲ失スルコト甚ダシキモノト云フベシ若シ後說ニ從ハソカ苟モ漂失荒廢ノ目的ヲ以テ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルトキハ偶々其目的ヲ達セザルモ未遂犯ヲ以テ論ズルコトヲ得ベキナリ法文ノ体裁ヨリ見レバ毆打創傷ト同一ニシテ前說可ナルガ如クナレドモ法ノ精神ヨリ言ハバ後說ヲ可トスベシ

此犯罪ノ處分ハ放火罪ニ於ケルガ如ク目的物ノ種類ニ因リ差等アリ

第一、人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス而シテ其所有者ノ誰タルヲ問ハザルハ勿論ナリ

第二、人ノ住居セザル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス此場合ニハ他人ノ所有ニ屬スル家屋其他ト解スルヲ要ス故ニ自己ノ所有ニ係ル家屋其他ナルトキハ之ヲ漂失セシムルモ本罪ヲナサズ

第三、田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス是レ亦タ他人ノ所有ニ係

ルトキト解スルヲ要ス
法律ハ以上ノ物件ニ限リタルガ故ニ放火罪ニ關シテ第四〇四條乃至第四〇六條ニ規定シタル如キ物件ヲ漂流荒廢スルトキハ第四一七條以下ノ規定ヲ適用スルニトアルベキモ本罪ヲ構成セズ

第四百十三條 他人ノ又便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ他人ヲ害シ又ハ己レヲ利スル爲メ水利ヲ妨害スルノ處爲テ規定シタリ此場合ニ於テハ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルノ故意アルヲ要スルノ外水ニ付テノ他人ノ便宜ヲ損シ或ハ自己ノ便益ヲ圖ルノ意思アルコトヲ要ス唯ダ注意スベキハ前二條ニ於テハ堤防ノ決潰水閘ノ毀壞ハ犯罪ノ手段ニ過ギザリシモノナレドモ本條ニ於テハ堤防ノ決潰水閘ノ毀壞自体ガ水利ヲ妨害スルノ行爲タルコトナリ
堤防ノ決潰水閘ノ毀壞ハ水利妨害ノ所爲ノ一例ニシテ其他ニ於テモ多々アリ例ヘバ他人ノ水車ニ用ユベキ水ヲ堰キ止メテ其流通ル妨グルガ如キ又ハ他人ノ用水ヲ自己ノ所有地ニ引クガ如キ是ナリ

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

決水ノ罪モ亦タ放火罪失火罪ニ於ケルガ如ク故意ニ出ヅルモノトモノト過失ニ出ヅル罪ヲ規定ス

過失決水罪ハ失火ノ例ニ照ラシテ處斷ストアルガ故ニ物件ノ大小輕重ニ拘ハラズ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處セラル、モノトス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

船舶覆没ノ罪トハ故意ヲ以テ衝突其他ノ所爲ニ依リ船舶ヲ覆没セシムル所爲ヲ謂フ衝突其他ノ所爲トアルガ故ニ船舶ニ發砲シ又ハ水雷火ヲ用ヒ若クハ船体ニ穴ヲ穿ツ等苟モ船舶ヲ覆没セシムルニ足ル所爲ハ總テ之ヲ包含ス覆没トハ轉覆及ビ沈没ノ義ナリト知ルベシ

此犯罪ノ處分ハ放火罪決水罪ニ於ケルガ如ク區別シテ處罰ス法文示ス所ノ如シ

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

本節ニ規定スル犯罪ハ權利ナクシテ他人ノ財産ヲ毀損スルノ所爲ナラザルベカ
ラズ故ニ例ヘバ火災ノ際消防ノ爲メ已ムヲ得ズシテ他人ノ建造物ヲ毀壞スルガ
如キハ此犯罪ヲ構成セズ又本節ノ罪ハ毀損スルノ故意アルノ外惡意アルヲ要
ス即チ他人ノ利益ヲ害スルノ意思アルコトヲ要ス故ニ修繕ノ爲メ隣家ノ牆壁ヲ
取毀チタルガ如キハ本罪ヲ構成セズ又他人ノ所有物ニ非レバ本節ノ罪成立セ
ザルハ勿論ナリ
方法ニ付テハ法律ハ毀壞毀損毀棄滅盡等種々ノ語ヲ幾分區別シテ使用シタリ而
シテ處罰ニ至リテモ毀損セル財産ノ如何ニ依リテ區別アリ以下ノ法文ニ就テ知
リ得ベシ

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁

錮ニ處シ二回以上五十回以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重モニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍收場ノ柵欄

ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二回以上二十回以下
ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人シ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以

下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二回以上二十回以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上

六月以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

何レモ説明ヲ要セズシテ明白ナリ

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ

又ハ三回以上三十回以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ汎ク動産ニ對スル毀棄罪ヲ規定シタリ通常ノ意味ニ於テハ器物トハ火鉢
箆筒等ノ家財其他農工商ニ用ユル器械ヲ意味シ疊衣類夜具又ハ動物等ハ器物ト
ハ稱セザルモ此ニ所謂器物トハ本節中ニ規定セラレタル總テノ動産ヲ意味スル
コトニ汎ク解釋シ來レリ

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二回以

上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ説明ヲ要セズ

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二回以上二十回以

下ノ罰金ヲ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ所謂親告罪タリ蓋シ犯罪ノ輕微ナルト學證ノ困難ナルニ基ツケルナリ

○第四編 違警罪

三九六

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本所ニ所謂權利義務ニ關スル證書トハ第二百十條第一項ノ權利義務ニ關スル證書ト同一義ナリ若シ夫レ權利義務ニ關セザル證書ハ所謂器物中ニ入ルベキモノナリ

第四編 違警罪

違警罪ハ犯罪中最モ輕微ナルモノナリ而シテ刑ノ適用其他ニ於テ重罪輕罪ト大ニ其趣ヲ異ニセルコトハ總則ニ記ルシタルガ如シ又々我刑法ハ如何ナル所爲ガ重罪ナルカ又々輕罪ナルカヲ直接ニ示サザリシニ拘ハラズ本編ニハ違警罪ノミヲ規定シ以テ如何ナン所爲ガ違警罪ナルヤヲ明示シタリ

重罪輕罪ニアリテハ罪質ニ因リ種々ノ分類ヲナシタレドモ法律ハ違警罪ニ至リテ刑ノ輕重ニ從ツテ分類スルノ便宜法ヲ採リ違警罪ヲ五種ニ區分シタリ而シテ違警罪ハ刑法ニ定メタルモノ、外行政官廳ノ命令又ハ他ノ法律ニ依テ定メラレタルモノ甚ダ多シト雖モ刑法ニ定メラレタルハ左ノ如シ

條文簡單ナルヲ以テ法文ヲ掲クルニ止メシ

第四百二十五條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市外ニ運搬シタル者
- 二 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
- 三 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
- 五 蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲ササル者
- 七 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 八 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
- 九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
- 十 密ニ賤淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者
- 十一 人ノ住居セル家屋内ニ潛伏シタル者
- 十二 定リタル住居ナク平常營生ノ產業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
- 十三 官許ノ基地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
- 十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カ

○第四編 違警罪

三九七

レタル時ハ第二十九條ノ例ニ從フ
第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
 - 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ背セサル者
 - 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
 - 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
 - 五 人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者
 - 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ驚逸セシメタル者
 - 七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
 - 八 狂犬猛獸等ノ擊鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
 - 九 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
 - 十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
 - 十一 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚瀆シタル者
 - 十二 公然人ヲ罵詈訶弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二 制止ヲ背セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ毀ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
- 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
- 十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
- 十三 私有地ヘ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
- 十四 官許ヲ得スシル路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
- 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者
- 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以

○第四編 違警罪

四〇〇

下ノ科料ニ處ス

- 一 官署ヨリ假額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
 - 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
 - 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出スシテ通行シタル者
 - 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 - 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
 - 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
 - 七 制止ヲ背セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 - 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
 - 九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 - 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 - 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 三 車馬ヲ竝ヘ來テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

- 四 水路ニ於テ舟ヲ竝ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
 - 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
 - 七 制止ヲ背セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忍カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
 - 十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
 - 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ背セサル者
 - 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
 - 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
 - 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
 - 十五 宅邸ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等毀損シタル者
 - 十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜葉ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
 - 十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者
 - 十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入シタル者
- 第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

○刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行スヘキコトヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

- 元始祭
- 孝明天皇祭
- 紀元節
- 春季皇靈祭
- 仁孝天皇祭
- 神武天皇祭
- 六月大祓

- 秋季皇靈祭
- 神宮神嘗祭
- 天長節
- 後桃園天皇祭
- 新嘗祭
- 光格天皇祭
- 十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法刑ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法刑ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故查請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下付スルコトヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故查ニ接見スルコトヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯彈ノ地

犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受クヘシ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家園ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人自死スル時ハ之ヲ徴收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ナシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止メ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送スヘシ(十五年第四十二號布告ヲ以テ全條改正)

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名實告書ノ添本ヲ附ス可シ

第二十四條 (同上布告ヲ以テ削除)

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム

但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ送送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間遵守ス可キ條件ヲ設聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受リ可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四 掘ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉任ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ送送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯在スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ

日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納スヘシ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ刑房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遺地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄中ノ刑房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付スヘキ時又ハ監視ノ限期間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付スヘキ時ハ竝ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ俊改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免ズルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ訴シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付スヘシ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名及ヒ處刑ノ年月日
- 二 殘期何年何月何日問假出獄ヲ許ス事
- 三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事
- 四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 (三十一年法律第十一號民法施行法第十四條ヲ以テ削除)

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ原本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ (十五年第四十二號布告ヲ以テ改正)

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏

シ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ移轉セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ移轉スルコトヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可シ

主刑滿期ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人、醫師、鑑定人、通譯人、翻譯人ニ給與ス可キ日常旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判

費用ト爲ス

第四十九條 證人ノ日常ハ出頭一度ニ付キ金貳拾錢乃至金五拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但止宿ヲ給與スル場合ニ於テハ日常ヲ給與セス(二十八年法律第三號ヲ以テ改正)

第四十九條乙 陪師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日常ハ出頭一度ニ付キ金參拾錢乃至金五圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム(同上)

第四十九條丙 證人、陪師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ旅費ハ海陸路滿一里ニ付キ金五錢乃至金拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アル時ハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス(同上)

第四十九條丁 證人、陪師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ止宿料ハ一日ニ付キ金貳拾錢乃至金五拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但滿八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スル時ニ非サレハ之ヲ給與セス(同上)

第五十條 證人、陪師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日常旅費及止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非レハ之ヲ給與セス(同上)

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日常ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 鑑定、通辯又翻譯等ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能者クハ費用ヲ要ス

スル時ハ日常ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得(三十三年法律第二號ヲ以テ改正)

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人自死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 (三十一年法律第十一號ヲ以テ削除)

第五十五條 (同上)

第五十六條 (同上)

第五十七條 (同上)

第五十八條 (同上)

第五十九條 (同上)

第六十條 (同上)

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ給還損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

○ 刑法附則
第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

四二二

17/6/317
刑法義解終

明治卅五年九月十五日印刷
明治卅五年九月二十日發行

刑法義解
定價金五拾錢



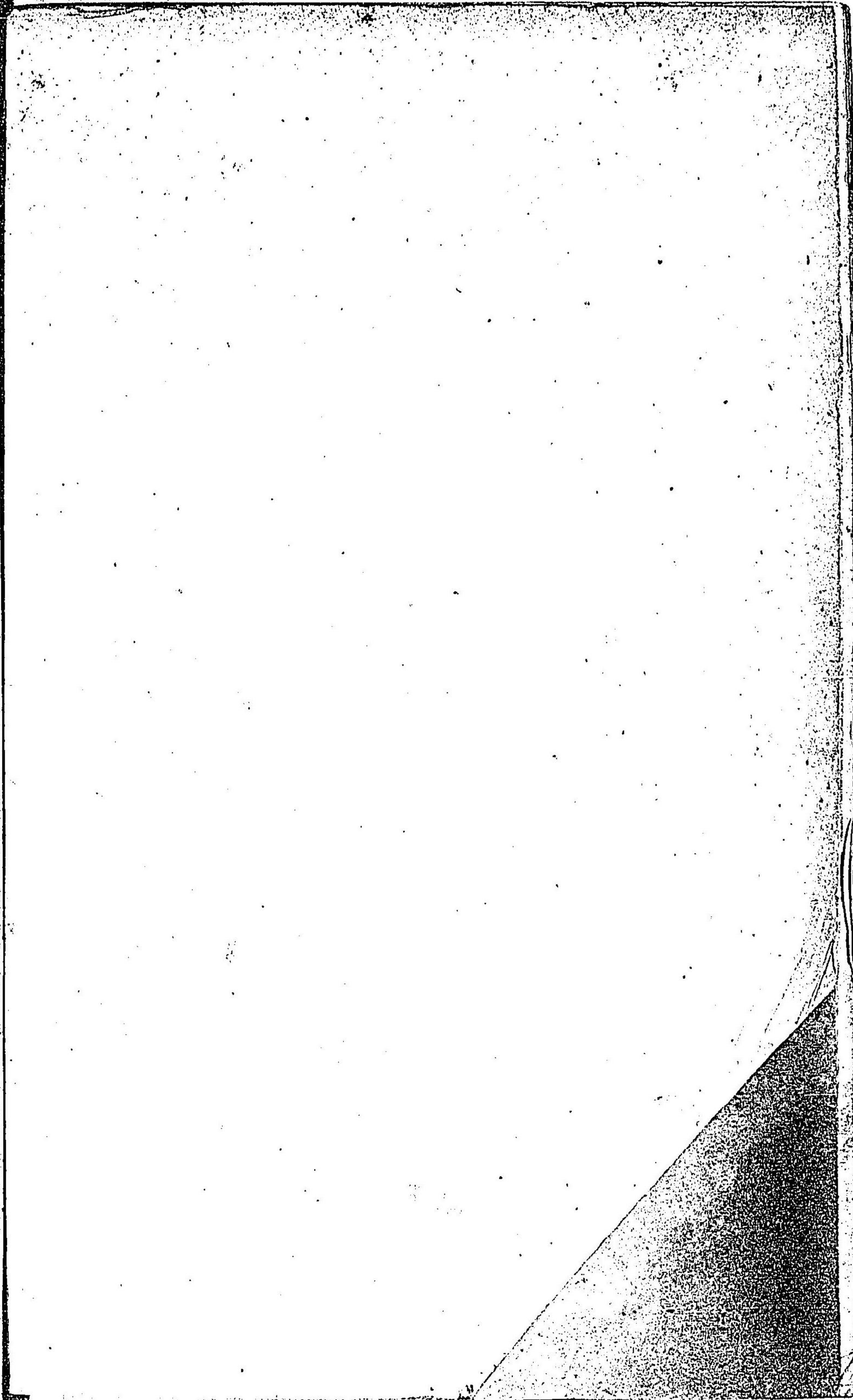
著作者 多喜澤秀雄
全 木村榮順
發行者 大淵涉
印刷者 吉村源次郎
印刷所 山田活版所
大阪府南區末吉橋邊丁百八十六番邸
大阪府南區東清水町參百拾壹番邸
大阪府南區安堂寺町貳丁目貳拾六番邸

發行所

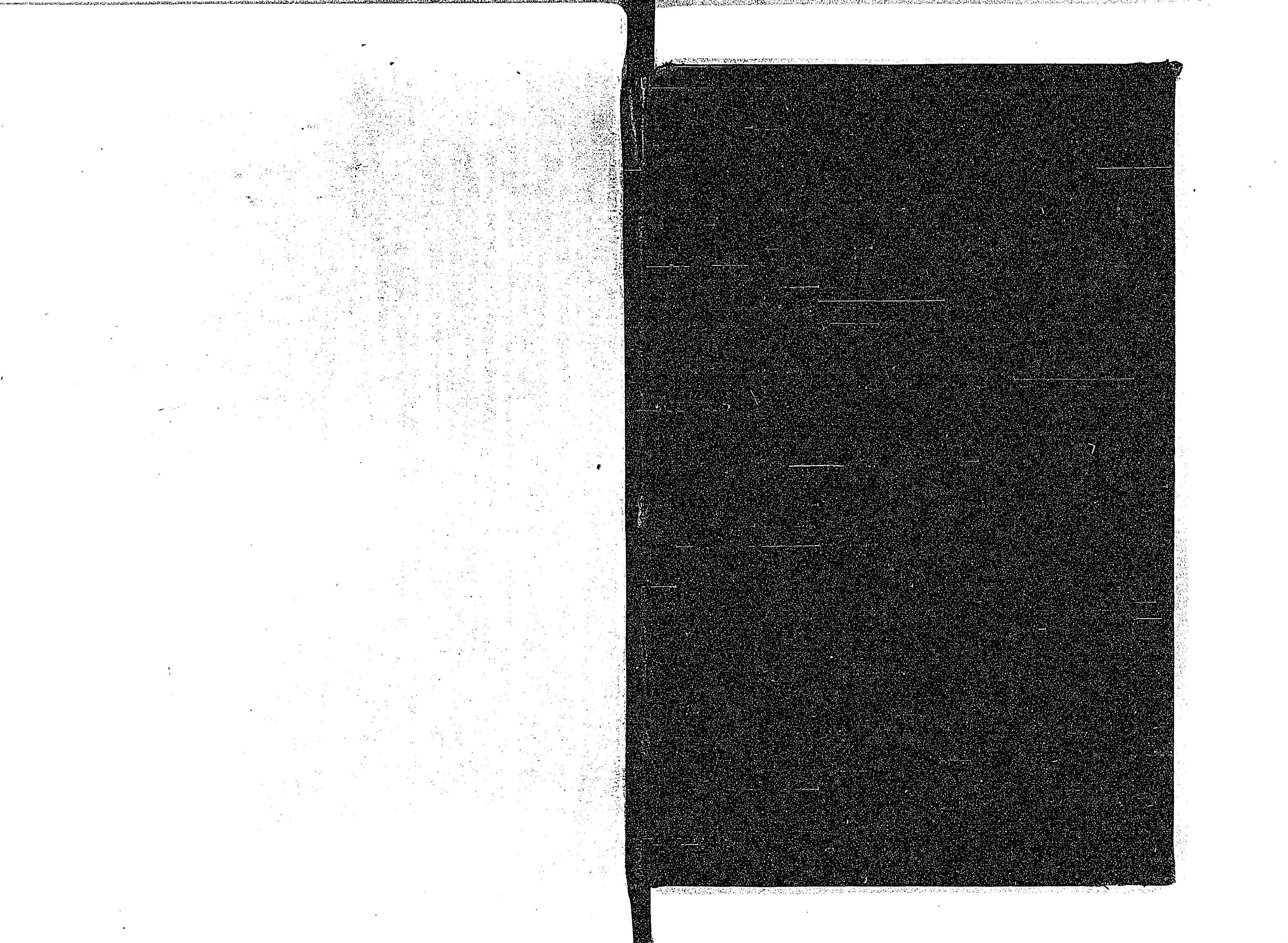
駸

堂

大阪府南區心齋橋北詰
（電話東京〇七十一番）



93
287



93
287

035664-000-3

93-287

刑法義解

多喜沢 秀雄

木村 栄順 / 著

M35

BBP-0233



